

平成30年度 石川県水産振興協議会 次第

平成31年3月19日（火）

10:30～12:00

県庁11階1101会議室

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介

4 議 題

（1）いしかわの水産業振興ビジョンの進捗状況について

（2）主な水産施策の紹介

- ・能登とり貝のブランド化の推進について
- ・海女文化の継承・振興に向けた取り組みについて

（3）最近の水産行政のトピックス

- ・水産政策の改革について
- ・卸売市場法の改正について
- ・食品衛生法の改正について

（4）平成30年度水産総合センター研究概要

- ・主要魚種の近年の漁獲状況

（5）石川県水産振興協議会規程の一部改正について

（6）その他

5 閉 会

平成30年度 石川県水産振興協議会 結果概要

(1) いしかわの水産業振興ビジョンの進捗状況について

- 平成29年度に策定した標記ビジョンについて、4つの目標と15項目の重点課題ごとに平成29～30年度の主な取組内容と今後の施策方針、施策効果を把握するための成果指標に関する平成29年度実績数値を説明した。

(2) 主な水産施策の紹介

- 能登とり貝のブランド化の推進及び海女文化の継承・振興に向けたこれまでの取り組みと今後の施策方針について紹介した。

(3) 最近の水産行政のトピックス

- 国による水産政策の改革の全体像について概要を説明するとともに、農林水産物の流通に係わる卸売市場法の改正や食品の加工流通の衛生管理に関する食品衛生法の改正について概要を紹介した。

(主な意見)

- 食品衛生法の改正にあたり、HACCPに沿った衛生管理の制度化についての説明があったが、漁協管理の市場も現実にHACCP対応型の施設整備が求められるとなると莫大な資金を要するのではないかと。さらには、出荷時に常に新品の魚箱を使用することや操業中の混獲ごみを処理する際の経費など、環境に配慮した取り組みにも今後更なる経費が掛かってくるのではないかと。こうした新たに実施することに対して、それなりの支援がほしい。

⇒ 基本的に、HACCPに沿った衛生管理の制度化は、漁業者・生産者に対してではない。市場については、HACCPに沿った衛生管理をしなくては行けないが、施設を充実させることが主題ではなく、どういう管理をすべきかという手法の話である。ただし、すべてに労力的な手間をかけて実施することが不合理であることから、その工程を簡略化するために新たな施設を整備するという概念が発生する。なお、詳細なマニュアルは現在整備中とのことである。

(4) 平成30年度水産総合センター研究概要

- 水産総合センターで実施している主な研究概要について紹介するとともに、スルメイカ、ズワイガニ、寒ブリ等の主要魚種の近年の漁獲状況について説明した。

(5) 石川県水産振興協議会規程の一部改正について

- 改正案（委員の任期を2年から3年に延長、委員区分の表現の明確化）について説明し、承認を得た。

（施行は次期委員の委嘱予定日から）

(6) その他

- 特になし